

C-23 柔軟加工に関する被服衛生学的研究(第2報)

広島女大家政 ○水野上与志子 広島文化短大 村上温子

目的 第1報では家庭用柔軟加工剤の高濃度による皮膚障害をとりあげた。第2報は多用されている柔軟加工剤(4種)をとりあげ、アクリル・ポリエステル布に加工し、皮膚障害、剛軟度について測定し、検討した。

方法 1). 衣料障害の実態調査 53年1月実施 調査人員 3515名 2). 実験布 アクリル・ポリエステル 100% 平織白布 3). 柔軟加工剤 ポリアミド有機酸塩(A)・ポリアミド第4級アンモニウム塩(B)・アマイドポリアミン型第4級アンモニウム塩(C)・アルキル第4級アンモニウム塩(D) 4). 加工法 純分0.2%濃度にて常温で5分間浸漬、アクリル布は90°C×30分・ポリエステル布は100°C×3分乾燥 5). パッチテスト 男女各10名、河合法 6). 剛軟度測定 カンチレバー法及びクランク法

結果 1). 調査 衣料障害例は18~31才 227名(9.8%)・31才以上 128名(10.8%) その中化繊による障害例は、各31.7, 43.8%を示した。2). パッチテストの結果 アクリル原布は準陰性 加工布中Aのみ準陽性を示し、B・C・Dは陰性、ポリエステル原布は準陰性、加工布はすべて準陰性であった。3). 剛軟度測定結果 アクリル布では緯布はB>D>A=C、経布はD>B=C>A、ポリエステル布では緯布はB=C>D>A、経布はC>B=A>Dとなった。4). アクリル布ではAとCで柔軟性が向上するがAは皮膚刺激が準陽性を示すのでCが適当であり、ポリエステル布はAとDで柔軟性が向上し、どちらも皮膚刺激は準陰性であった。今後これらによる撥水性 吸水性の測定を行う。